

# デーモンコアくんの ヒーローアカデミア？

ハリー・ルイス博士

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

「こんにちは！ ボク、デーモンコアくんって言なんだ」

「今日は雄英高校ヒーロー科の受験に来てるんだ」

不謹慎要素が一部含まれます。

# 目次

第一話	雄英入試	1
第二話	おいでよヴェイラン連合	5



# 第一話 雄英入試

こんにちは！ ボク、デーモンコアくんっていうんだ。

あー、でもボクの名前はデーモンコアじゃなくて、個性がデーモンコアなんだ。けど、デーモンコアってなんだかわかるかな？

デーモンコアってなに？

デーモン・コアとは、ベリリウムとプルトニウムの半球をどれだけ近づけると臨界状態になるか、というのを計測する実験で使われた、プルトニウムの塊のことなんだ。ベリリウムとプルトニウムの間にはマイナスイオンを差し込んで上げ下げすることで距離を変えるんだけど、ベリリウムとプルトニウムの半球の距離がゼロになると青い光と共に大量の中性子が放出されて、急性放射性障害に陥ってしまうんだ。参考文献：Wikipedia

簡単に言うと、うっかりデーモンコアがくつつくいたりしたら、死ぬ。

今日は雄英高校ヒーロー科の実技試験日。

倍率300倍のとっても難しい高校なんだ。

あつ、プレゼントマイクだ。

ラジオでの返し知ってるぞ。よし。

『受験生のリスナー！今日はオレのライブによろこそ!! エヴィバデイセイハイ!!!』

「ヨーコソー！」

『……こいつは、シヴィー!!!』

あー、やっぱりドライバーが挟まってるとしやべりづらいな。

……

……

プツ！

『なら、受験生のリスナーに、実技試験の概要をサクッとプレゼンするぜ!! アーユーレ

デイ!』

『ヤー!!』(キンツ)

その時、雄英高校受験会場は核の炎に包まれた。

青い光と共に放出された超高強度の放射線は、瞬く間に受験生、並びに関係者の命を掠め取った。

日本の未来の平和はここに潰えたのである。

阿久間 心あくま しんこ

○個性：デーモンコア

・口を閉じると青い光と共に大量の中性子線とガンマ線を放射できる！ 普段はマイナードライバーが刺さっていて完全には閉じないようになってるぞ！

・一瞬閉じるだけなら、周りのみんなが死ぬただけけど、ずっと閉じてるとTNT換算で最大15kt規模の大爆発を起こすぞ！

・大爆発を起こした後は、服が消し飛んで全裸になるぞ！

阿久間，S 歯

実はプルトニウムとベリリウムではなく、別の何か。

阿久間，S 口

ドライバーがないと意外に滑舌はいい。

阿久間，S顎

ビックリするくらいよく開く。

阿久間，S腕

細い。アクマジみてる。

阿久間，S脚

細い。アクマジみてる。

あとがき（という名の文字数稼ぎ）

阿久間くんは異形型かとか、性別とかは特に決めてないです。

原作では男の子と明言されていましたが、擬人化するかしらないかとか色々考えた結果、特に明記しないことにしました。一応、原作のままとしても、擬人化しても問題ないように本文を書いているつもりです。

名前の由来は、そのまんまデーモン↓あくま↓阿久間とコア↓核↓心って感じですよ。

ちなみに阿久間の名前が、”阿久津”と書いてから”津”を消して”間”を追加しないといけないので、結構面倒です。



## 第二話 おいでよヴィラン連合

こんにちは！ ボク、デーモンコアくんっていうんだ！  
つとその前に。

デーモンコアくんって、なあ〜に？

デーモンコアくんはからめる氏によって投稿された短編アニメ。主人公のデーモンコアくんは体がプルトニウムとベリリウムの金属塊でできていて、いつもはマイナスイオンで隙間を開けてる口を完全に閉じると、青い光と共にみんなを消し飛ばしちゃうんだ。

みんなもデータを保存せずにウィンドウを閉じて、データを消し飛ばしちゃうたりしないよう気を付けてね。

ここはどこかの寂れたビルの一室。

小洒落ているものの、どこか陰鬱としたアングラめいた雰囲気漂うバーとなっている。

そのアングラというのはまさに正解で、ここはヴィランの溜まり場。それも今、世間を騒がせているヴィラン連合の拠点だった。

「気になりますか、死柄木弔。その少年、緑谷出久が」

死柄木と呼ばれた少年は、細身でガタイも悪くどう見ても戦いに向いているといういで立ちではなかった。それだけを聞けばヴィランではないのかもしれないと思うかもしれないが、彼の纏う雰囲気、そして何よりもその顔を覆う誰のとも知れぬ左手は、彼がまさしくヴィランそのものであることを示していた。

バーテンダーの男は、その死柄木をまるで王子か何かとして扱うかの如く、敬語で語り掛けていた。

死柄木の手には、名前が拳がった少年、緑谷出久の写真が握られている。

唐突。

チリリン、という呼び鈴とともに、一人の客が訪れた。

「死柄木さん。こつちじや連日、アンタらの話で持ちきりだぜ」

そんなセリフをにやけた口調で述べるのは、義爛という闇でブローカーとして働く男だった。

彼について述べるなら、まず第一に胡散臭いということだろう。色付きの眼鏡に、紫のスーツ。にやけた口角から覗く前歯は一本欠けている。

「なにかデケーることが始まるんじゃないか——」

「で、そいつらは」

遮ったのは、死柄木だった。

苛立たし気に丸められた写真は塵となって崩れる。

これが彼の個性『崩壊』。その力は五指で触れたものを崩壊させるというもの。

死柄木が単刀直入に求めたのは、人材の紹介。義爛が連れてきたヴィラン連合への加入希望者だった。

義爛は何人かの男女とともに、銀色の球体のような存在を連れてきた。

球体は半ばで真一文字に割れ、それが接合するのを防ぐように一般のドライバーが突き立っている。

四肢は巨大な球体の胴とは打って変わって細い。他に人らしい特徴といえれば球面上の何も考えてなさそうな瞳だけで、その他の感覚機関や体の部位は存在しなかった。

そんな存在、デーモンコアくんは義爛に導かれ、バーに入る……

——という所で、ドアに引っかかって静止。

個性バリアフリーがちゃんとなされていない店である。

仕方なく、デーモンコアくんだけは外で待機することとなった。

「黒霧、こいつらトバセ。俺の大嫌いなもんなセットで来やがった。餓鬼と、礼儀知らず。それから……なんだおまえは」

なんかいきなり戦闘やら何やらあつて、頭を冷やそうと死柄木は席を立った。そもそも部屋に入れないデーモンコアくんは蚊帳の外である。

「邪魔だよおまえ」

部屋のドアに立って塞いでいたデーモンコアくんに、死柄木は苛立ち混じりに触れる。

ピトツ

「あつ」

ところで、核分裂という現象は放射性元素が原子レベルで崩壊することで進行する。

一つの原子核が崩壊することで放たれる中性子線は複数個であり、さらにそれは他の原子に衝突して原子を不安定化。連鎖的に、加速的に反応は進行することで、原子核の融合エネルギーが解放されたれ莫大な熱量として放出されるのだ。

とある日本の片隅にある、寂れたバーは核の炎に包まれた。

歪みを生まれ持った男の憎悪やら、青い炎を放つ妄執やら、とある雄英教師の後悔やら、純粹に社会に溶け込むことのできなかつた悲劇やらは諸共。

A F Oが最高の魔王になるまでの物語はここに潰えたのである。